

## 第204回福井県原子力環境安全管理協議会 概要

原子力安全対策課

1. 日 時 平成30年10月23日（火） 15時30分～16時20分
2. 場 所 （公財）福井原子力センター 2階 研修ホール
3. 出席者 別紙のとおり
4. 議 題
  - (1) 原子力発電所周辺の環境放射能測定結果（平成30年度 第1四半期）
  - (2) 原子力発電所から排出される温排水調査結果（平成30年度 第1四半期）
  - (3) 発電所の運転・建設および廃止措置状況（平成30年8月～10月）
  - (4) 「もんじゅ」の燃料取出し作業の状況について
5. 配付資料 別紙のとおり

## 6. 議事概要

### ○議題説明

- (1) 原子力発電所周辺の環境放射能測定結果（平成30年度 第1四半期）  
[県 原子力環境監視センター 田賀 所長より説明]
- (2) 原子力発電所から排出される温排水調査結果（平成30年度 第1四半期）  
[県 水産試験場 石田 場長より説明]
- (3) 発電所の運転・建設および廃止措置状況(平成30年8月～10月)  
[県 原子力安全対策課より説明]

・質疑なし

- (4) 「もんじゅ」の燃料取出し作業の状況について  
[日本原子力研究開発機構 伊藤 理事]

(県議会：石川 議員)

- ・資料についてはしっかりと説明があった。しかし、私どもは全くの素人、皆様方は専門家であり、研究を行いながら燃料を取り出していくことになるだろうが、恥ずかしいことに、事あるごとに一つ一つにものを申さなければならない問題が起きている。
- ・計算だけが先に走って、作業をする度に問題が起きるとするのは、全く素人のやり方であり、専門家ならば、専門家らしい考え方をもちてチェックすべきである。
- ・やっては取り消し、やり直しては取り消しということをやっている。そして、地域の住民には、また失敗する、判断が誤っているという話が聞こえてくるようになる。
- ・もんじゅの廃炉には30年かかると言っているが、それまでに本当にきちんとできるのか。
- ・現在、もんじゅにいる職員や技術者は、今後、年齢がきてほとんどいなくなる。次の段階までいどのようにして指導していくのか、説明いただきたい。

(日本原子力研究開発機構：伊藤 理事)

- ・事あるごとに不具合を起こしてとのご指摘に関しては、我々はしっかりとこれを反省して、この経験を生かして、工程ありきではなく安全第一で進んでいきたいと思っている。
- ・現在、もんじゅには300名の職員がいるが、今後30年かけて解体を進めていく訳であり、世代交代なども当然必要である。
- ・教育メニュー等を確立して技術伝承していくとともに、新たに今年から採用を増やしている。新たな若者にもそれらの作業に取り組んでいただき、世代交代をしながら、順調に行くようにしっかりと取り組んでいきたいと考えている。

以上